子宮頸がん予防ワクチンの
積極的な接種勧奨の差し控えについて

平成 25 年 6 月 14 日に行われた厚生労働省厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会の結果、子宮頸がん予防ワクチンの接種については、因果関係は不明ながら重篤な副反応の報告が増えていることから、**積極的な接種の勧奨を差し控えることとなりました。**

希望がある方は、従来どおり接種できますが、接種に当たっては、**有効性**と**リスク**を**十分理解したうえで、受けてください。**

※　接種が終了していない方の、今後の接種間隔や再開時期については、厚生労働省から情報が入り次第、ホームページ等でお知らせする予定です。

子宮頸がん予防接種の効果

子宮頸がん予防ワクチンは、子宮頸がん全体の５０～７０％の原因とされる 2 種類（16 型・18 型）のヒトパピローマウィルス（ＨＰＶ）に予防効果があります。

16 型ＨＰＶと 18 型ＨＰＶの感染やがんになる過程の異常（異型性）を９０％以上予防できたとの報告があり、子宮頸がんの予防効果が期待されています。

子宮頸がん予防接種の副反応

☆　頻度 10 ％ 以上

かゆみ、注射部位の痛み・赤み・腫れ、胃腸症状（吐き気、嘔吐、下痢、腹痛など）筋肉の痛み、関節の痛み、頭痛、疲労

☆　頻度１～10 ％ 未満

発疹、じんましん、注射部位のしこり、めまい、発熱、上気道感染

☆　頻度 0.1～1％ 未満

注射部位のピリピリ感/ムズムズ感

☆　頻度不明

失神・血管迷走神経発作（息苦しい、息切れ、動悸、気を失うなど）

重い副反応として、まれにアナフィラキシー様症状（血管浮腫・じんましん・呼吸困難など）、急性散在性脳脊髄炎（頭痛・けいれん・運動障害・意識障害など）、ギランバレー症候群（四肢麻痺・腱反射の減弱など）が、あらわれることがあります。

高根沢町保健センター

TEL　６７５－４５５９